

<<柿の種>>

图书基本信息

书名：<<柿の種>>

13位ISBN编号：9784003103777

10位ISBN编号：4003103777

出版时间：1996-4-16

出版时间：岩波書店

作者：寺田 寅彦

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问：<http://www.tushu007.com>

<<柿の種>>

内容概要

日常のなかの不思議を研究した物理学者で、随筆の名手としても知られる寺田寅彦の短文集。大正9年に始まる句誌「渋柿」への連載から病床での口授筆記までを含む176篇。「なるべく心の忙（せわ）しくない、ゆっくりした余裕のある時に、一節ずつ間をおいて読んでもらいたい」という著者の願いがこめられている。
（解説＝池内 了）

<<柿の種>>

作者简介

寺田 寅彦（てらだ とらひこ、1878年（明治11年）11月28日 - 1935年（昭和10年）12月31日）は、戦前の日本の物理学者、随筆家、俳人であり吉村冬彦の筆名もある。高知県出身（出生地は東京市）。

研究上の業績としては、地球物理学関連のもの（潮汐の副振動の観測など）があるいっぽうで、1913年には「X線の結晶透過」（ラウエ斑点の実験）についての発表（結晶解析分野としては非常に初期の研究のひとつ）を行い、その業績により1917年に帝国学士院恩賜賞を受賞している。また、「金平糖の角の研究」や「ひび割れの研究」など、統計力学的な「形の物理学」分野での先駆的な研究も行っていて、これら身の物理現象の研究は「寺田物理学」の名を得ている。

寅彦は自然科学者でありながら文学など自然科学以外の事柄にも造詣が深く、科学と文学を調和させた随筆を多く残している。

その中には大陸移動説を先取りするような作品もある。

「天災は忘れた頃にやってくる」は寅彦の言葉といわれるが、著書中にその文言はない。

今日では、寅彦は自らの随筆を通じて学問領域の融合を試みているという観点からの再評価も高まっている。

漱石の元に集う弟子たちの中でも最古参に位置し、科学や西洋音楽など寅彦が得意とする分野では漱石が教えを請うこともあって、弟子ではなく対等の友人として扱われていたと思われるフシもあり、それは門弟との面会日だった木曜日以外にも夏目邸を訪問していたことなどから推察できる。そうしたこともあって、内田百閒らの随筆で敬意を持って扱われている。

また『吾輩は猫である』の水島寒月や『三四郎』の野々宮宗八のモデルともいわれる。このことは漱石が寒月の扱いについて伺いをたてる手紙を書いていることや、帝大理学部での描写やそこで行われている実験が寅彦の案内で見学した体験に基づいていることから裏付けられる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/寺田寅彦>

<<柿の種>>

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:<http://www.tushu007.com>